

# ゴンドウ ヨシツグ

権藤 良嗣

都議会議員 酒井大史 秘書



公認  
決定

立憲民主党は6月19日執行の立川市議会議員選挙に向けて、酒井大史都議会議員秘書・権藤良嗣さんを公認候補予定者として決定しました。以下、権藤良嗣さんの経歴・主張をご紹介します。

つくる。新時代立川!

## 進化し続ける立川を創る

民間企業でのマーケティング経験を活かし

シティプロモーション、多摩地域観光ルートの設定で「泊まって、楽しむまち立川」を創る。

南武線の羽田空港ダイレクトアクセス（酒井市長選時プラン）と高齢者の移動手段（くるりんバス再編・デマンドタクシー等）拡充で「利便性の高いまち立川」を創る。

ベンチャー企業誘致と起業支援で「活力ある立川」を創る。



## 安心できる立川を創る

立川のまちを知るため、宅配業（大手宅配会社 下請け自営）を営み見えてきた視点から

立川駅南口周辺の治安・駐車対策や通学路の安全対策、暗い夜道の照明対策推進で「駅前・住宅地が安心できる立川」を創る。

地場産野菜の更なるブランド化・学校給食への積極活用・子ども食堂などの連携を推進し、食べる・地場産・食育強化で「安心・心豊かな立川」を創る。

保育所、駅前送迎ステーション設置（酒井市長選時プラン）で「ゆとりをもって通勤できる立川」を創る。

## スポーツと医療先進都市・立川を創る



西武ライオンズ勤務、医師・歯科医師資格を有する国会議員秘書の経験から

錦町下水処理場（令和5年度に都流域下水道へ編入）敷地にスポーツ健康施設・ドックランなどの設置を。新スポーツ（例・パデル）の推進、プロ野球イースタンリーグ誘致などで「スポーツのまち立川」を創る。

フレイル予防、口腔ケア推進、コロナ後遺症者への支援、ソーシャルインパクトボンドを活用し「がん検診」受診率向上等により「生涯健康・健康長寿のまち立川」を創る。

コロナ禍で、私たちの日常は大きく変わり、「生き方」「考え方」の転換を余儀なくされました。マスクは必須、飲食店は時短・人数制限、イベントは無観客、当たり前がどれほど尊いか身に染みる日々が続いています。

立川においても昭和記念公園の花火大会を始め、各地域でのイベントやお祭りの中止など、「わくわく楽しいこと」が少なくなっていました。

政治に目を向けると、国の対応のみならず、コロナ禍は、ワクチン接種券の発送や接種時期、自宅療養者への対応など、基礎的自治体の力量の差も浮き彫りになりました。

【トップの決断】【ていねいな説明やロジックに基づいた政策】の必要性を改めて実感し、政治が良くも悪くも市民生活に大きく影響する今、立川が変わるチャンスは4年に一度の市長選・市議選しかないとの思いから、酒井大史都議会議員と活動を共にし、市政を目指す決意をしました。

民間企業での勤務・自営業者としての経験、国会・都議会議員秘書経験を活かし、住みたくなるまち・住み続けたいまち、「もっともっと活力溢れる立川！」を目指し活動してまいります。





# 酒井大史との対談で、ゴンちゃんの生い立ちを紹介。

## 広島出身のゴン



**酒井** 権藤君って、広島出身だよ。広島島のイメージって原爆、お好み焼き、カーブかなあ。

**権藤** 小学4年より高校まで過ごしました。父がゼネコンで転勤が多く、山口県小野田市（現在山陽小野田市）から広島市に。

山口の学校にはアスレチックがあり、給食を野外で食べられる伸び伸びした環境でした。一転、広島は都会。父の影響でカープファンだったので新たな夢と希望に溢れていました。学校にはすぐ馴染めましたが、「転校生はつらいな」って思う事もありました。もちろん原爆の悲惨さも共有することになりました。

**酒井** 広島での印象的な思い出は。

**権藤** 小・中学校のエリアは社宅が多く、企業の業績悪化でクラスが8から6まで減少した時の転入生で、転校生の話を聞くと寂しさを感じました。

また、被差別部落、在日外国人の方が多くエリアで家庭環境が複雑な友達も。中学2年からクラスに障害のある子がいて、みんなが個性を大切に、仲間を思いやるなど勉強以外で学ぶ事が多かった記憶があります。いま思うと多様性を幼少期から経験できたのは、とても良かったと思っています。

高校は県立で、部活は陸上部、街中の高校で先輩や友達と遊ぶ事を優先していました。学校の先生も比較的自主性を重んじてくれていました。

## 東京にやって来たゴン

**酒井** 大学は駅伝で有名な青山学院だよ。お洒落なイメージだけど。

**権藤** 高校時代の恩師の影響で青山学院へ。青山学院出身で百貨店を経て高校教師になったお洒落な方で、大学生活って楽しそうだとワクワクして青山学院を目指しました。



大学時代のバイトは美容やアパレル関係など、女性の中で男性一人という環境で仕事をしていました。就活はバブルがはじけて厳しい状況、卒業の年に拓銀、山一証券の破綻など、現在に通じる経済状況の始まりでした。

**酒井** 珍しい職歴は西武ライオンズだね。選手以外にどんな仕事があるの。

**権藤** 球団事業部のマネージャーとして、球場内の広告と年間席などを販売していました。オフシーズンはスポンサーのイベントなどで選手を誘導することもありました。

野球選手は日々戦い、いつ戦力外通告を受けるかもしれない厳しい環境の中、試合を通じて年齢を問わずファンに感動や希望を届けています。それを間近で感じられたことは貴重な経験でした。プロチームは利益を追求しつつ野球を通じて地域社会に貢献していく、ある意味、行政にも必要な視点だと思えます。



## 立川に転居したゴン

**酒井** 立川に転居したきっかけは、「ゴンちゃん、市議選に挑戦してみないか」だったね。立川の街を知るため、1年間個人事業主として、ヤマト運輸の下請配達やコロナ自宅療養者への宅配に取り組んできたけど、立川に何を感じた？

**権藤** 街は朝と夜、平日と休日では見え方が全く異なっていました。例えば駅前駐車場の問題、自転車、通路の安全確保、小規模保育園の遊び場、防犯に係わる地域の照明など多岐にわたる課題が見えてきました。さらに立川に来て感じたことは、商業的には住みやすく、更なる可能性を秘めた街だということです。

企業誘致や多摩地域の観光拠点として、もっとシティセールスが出来るとはなにかと。酒井さんが都議会で取り上げ、市長選時のプランとして掲げた「南武線の羽田空港へのダイレクトアクセス」は、立川のみならず多摩地域の住民にとって夢のあるプランとして共に、提案していきたいと思っています。



連絡先  
〒190-0012 立川市曙町 2-34-6-803  
都議会議員酒井大史事務所内  
TEL 042-528-6522 FAX 528-6525  
gondou@sakai-tachikawa.tokyo



## 私も応援します。

4年前の市議選では、1千人近い方々にご支援頂くも惜敗しました。この間、家業を営むと共に、酒井都議と共に訪問介護事業所を立ち上げ福祉事業にも関わっています。

今回、私は出馬を見送り、権藤良嗣さんを後継者として応援しています。

立川市議会第63代副議長  
**梅田 春生**



## プロフィール ~ Profile ~

1974年（昭和49年）3月13日生、48歳・寅年 0型  
広島県立広島国泰寺高等学校  
青山学院大学経済学部経済学科  
株式会社デンソー（現デンソーソリューション）  
株式会社西武ライオンズ 事業部 マネージャー  
衆議院議員公設秘書、参議院議員秘書  
現在：都議会議員酒井大史秘書、個人事業主（運送業）  
趣味 プロ野球観戦、食べ歩き、温泉めぐり、サウナ  
動物好き（モルモット）

